

体験的な活動の充実に向けた土曜授業のモデルカリキュラム（寿都町立寿都小学校） 学級数8（うち、特別支援学級2）児童80名

〔子どもの姿〕

- 好奇心が旺盛で何事にも興味を示す姿が見られるが、地域の伝統・文化・産業について、体験的に学ぶ機会が少ない。
- 保護者や地域住民に対して、礼儀正しく挨拶するなど、基本的な生活習慣を身に付けているが、多様な人と積極的にコミュニケーションを図り、よりよい人間関係を構築する力に課題が見られる。
- 学習に粘り付く取り組む姿勢が見られるが、複数の内容を比較したり関連付けたりすることや、条件に応じて記述する力、などに課題が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

体験的な活動を通じ、保護者や地域住民の協力の下、児童が地域に愛着をもち、大切にできる心情を育てる。

〔目標指標〕

学年末の児童アンケートにおいて、「地域を大切にしていきたい」と回答する児童の割合を8割以上にする。

〔地域の実状〕

- 保護者、地域住民は学校の教育活動について、協力的である。
- 平成27年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会委員が、年3回以上の学校訪問を行うなど、積極的に学校運営に携わっている。
- 年2回行う保護者アンケートにおいて、学校運営、学習習慣、生徒指導など教育活動全般について、学校改善に前向きな意見を多数記入していただいている。

体験的な活動の実際

多様な体験的な活動を展開していくために、コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、保護者や校区内地域の自治体と連携した取組を行っている。

体験的な活動においては、地域の教育資源を生かし、子どもの興味・関心を十分に喚起して、一連の活動が子どもにとって必要感を伴ったものとなるようにしている。活動後には、地域の人とともに活動して感じたこと、地域の人たちのためにしていきたいことなど、振り返る活動を充実させることで、地域を大切にできる心情を育てている。



【安全マップの作成】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
5月14日（土）	○ 畑おこし ・生活科や理科で取り組んでいる教材園を活用した植物の生育に関する体験的な活動を実施	○ 学校運営協議会を通じた保護者への協力依頼
5月28日（土）	○ 安全マップ作成 ・保護者や地域の方々の協力を得て、通学路を中心に校区内の危険箇所の確認及び安全マップの作成	○ 保護者及び地域の方々が同伴し、集団で危険箇所を確認
7月23日（土）	○ 終業式 ・一学期の振り返りを行い、夏休みや2学期の取組に対する見通しや目標を設定	○ 児童の作文発表を取り入れ、大勢の前で発表する機会を設定
8月27日（土）	○ 学級懇談 ・食育の学習などにおいて、体験的な活動の授業を公開（地域公開）	○ 保護者及び地域の方々の参観を通じ、児童の成長を共有
10月22日（土）	○ 縄跳び講習会 ・講師を招聘し縄跳びの指導を行い、体力向上の取組を推進	○ 外部講師を招聘（北海道教育大学教授）
11月26日（土）	○ 実践発表会 ・算数の学習に体験的な活動を取り入れた授業を公開（地域公開）	○ 研究協議の場において、これまでの取組を評価
2月25日（土）	○ 6年生を送る会 ・卒業に向けた児童会行事を、各学級において実施	○ 児童会行事や儀式的行事と関連



【講師を招聘した縄跳び指導】

本カリキュラムのポイント

- ◆ **地域に開かれた学校づくりの推進**
 - ・学校運営協議会を通じ、学校の取組を保護者や地域の方々に周知
 - ・保護者及び地域の方々と児童の成長を共有
- ◆ **多様な体験的な活動を保障**
 - ・地域の資源を生かした多様な体験的な活動を保障
- ◆ **児童会集会活動や儀式的行事と関連**
 - ・教科等の学習活動だけではなく、児童会主催の集会活動や儀式的行事とも関連させた取組の充実

体験的な学習の充実を図る土曜授業のモデルカリキュラム（日高町立里平小学校） 学級数3（うち、特別支援学級0）児童 5名

〔子どもの姿〕

- 明るく朗らかで、いじめや問題行動等はなく、学校行事等では協力しながら活動している。
- 保護者や地域住民との関わりが深く、児童は積極的に地域の一員として行動し、挨拶や礼儀などの生活習慣が身に付いている。
- 基礎的・基本的な知識や技能を生かし、主体的に学習を進めたり、相手の考えから自分の思考を深め、相手に分かりやすく表現したりすることに課題がある。

〔本校における土曜授業のねらい〕

土曜授業で生み出される時間を効果的に活用し、体験的な学習を取り入れて、児童一人一人が主体的、対話的で深い学びとなる学習を促す取組を行う。

〔目標指標〕

児童アンケートを実施し、「いろいろな人の話を聞いたり、触れ合ったりすることができた」について、全ての児童が「そう思う」と回答する。

〔地域の実状〕

- 地域住民は、様々な学校の教育活動について、協力的である。
- 児童の家庭が2戸であるが、学校の取組について関心が高く、積極的に支援してくれる。
- 地域住民とともに山村留学制度を考え、コミュニティ・スクール導入を推進し、学校の活性化を図っている。
- 中学校への進学を見通し、近隣の小・中学校と学校行事や授業などの児童生徒間の交流学习の取組を推進している。

体験的な学習の充実の実際

土曜授業における体験的な学習の充実に当たっては、学習に対する児童の興味や関心を高めることはもとより、日常の教育活動と関連付けた効果的な指導が展開できるよう様々な分野の外部講師等を活用した校外での学習等を行っている。

そのため、児童が思考を深めたり、相手に分かりやすく表現したりする学習の充実が図られるとともに、主体的・対話的に学習する態度が身に付き、深い学びに結び付いている。

また、農園活動などによる体験的な学習においては、キャリア教育の視点を生かしながら、土曜授業ならではの地域と学校が連携を図った教育活動を推進している。



【PTA等の協力による農園活動】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月23日（土） 5月28日（土） 7月2日（土）	○ 全ての学年で、理科や生活科において自然観察の学習を実施 ・自然観察と農園活動の学習を関連付け、主体的な活動となる学習の充実	○ PTAや学校評議委員会の活用 ・PTAや学校評議委員による、農園活動におけるボランティア活動 ・自然観察における案内（全学年） ・農園活動への協力（全学年）
6月18日（土）	○ 国語科と関連付けた読書活動 ・図書館を活用した国語科における読書活動と「読むこと」領域の指導の充実	○ 地域にある教育施設の活用 ・図書館訪問への協力（全学年）
9月3日（土）	○ 全ての学年で、体育の授業における交流学习を実施 ・水泳記録会を他校と合同で実施し、児童同士が記録の交流をするなど、児童の興味や関心を高める学習の実施	○ 近隣校と連携を図った教育活動 ・保護者や地域住民と連携を図った近隣の小学校と合同で行う水泳記録会の実施（全学年）
11月26日（土）	○ 全ての学年で、理科の授業における実験・観察の学習を実施 ・児童が科学に興味や関心をもち、主体的・対話的な学習となるような実験教室の実施	○ 地域人材の活用 ・教育局から講師を招いての理科実験教室の実施（全学年）
1月21日（土）	○ 全ての学年で、体育の授業における交流学习を実施 ・スケート学習を他校と合同で実施し、児童同士と一緒に学習に取り組むなどの交流をして、児童の興味や関心を高める学習の実施	○ 近隣校と連携を図った教育活動 ・保護者や地域住民と連携を図った近隣の小学校と合同で行うスケート学習の実施（全学年）
2月4日（土）	○ 全ての学年で、音楽の授業における表現活動を実施 ・児童が日常の音楽の授業で学習したことを表現するとともに、和楽器（琴）を鑑賞したり、実際に演奏したりするなど、地域と連携を図った体験学習の実施	○ 地域人材の活用 ・保護者や地域住民を含め、地域人材バンクを活用した和楽器（琴）教室の開催（全学年）



【PTA等の協力による自然観察】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
 - ・主体的・対話的な学習を促す体験的な学習の実施
 - ・土曜授業で生まれた時数を各教科等の補充・深化に活用
- ◆学習内容と地域の人的・物的資源の活用
 - ・児童の学習への興味・関心を高める地域の環境や外部人材の活用
 - ・キャリア教育の視点を生かし、地域と連携した体験的な学習と日常の学習指導との関連を図った指導の充実

体験的・問題解決的な学習の充実を図る土曜授業のモデルカリキュラム（北斗市立谷川小学校） 学級数8（うち、特別支援学級2）児童137名

〔子どもの姿〕

- 全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果等から次の点が明らかになった。
 - ・授業や学習に対する意欲が高く、体験的な活動に積極的に取り組む。
 - ・体験的な活動において、自ら課題を見出し解決に向けて取り組むなど、問題解決的な学習の方法を身に付けることにおいて課題が見られる。
 - ・教科等で学習した内容を、体験的な活動や他教科で活用し、学びを広げたり、深めたりする力を身に付けることにおいて、課題が見られる。
 - ・ふるさとを大切に思う心やふるさとのよさを感じる心について課題が見られる。

〔本校における土曜授業のねらい〕

- 学校運営協議会の協力で地域の教育資源等を活用した体験的な活動の実施により、地域とのつながりやふるさとのよさを大切にする心を育む。
- 体験的な活動の多くを土曜授業で実施し、平日は教科等の学習に集中させることにより、授業への理解度を高める。また、体験的な活動と教科等の関連を図り、問題解決的な学習の方法を身に付けさせる。

〔目標指標〕

土曜授業アンケートの「普段の授業がわかるようになった」「土曜授業の体験が、授業等で役に立った」の質問で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する児童の割合を8割以上にする。

〔地域の実状〕

- 保護者・地域住民は、学校の教育活動に対して大変協力的であり、学校の行事への参加も積極的である。
- 学校の要請に対する保護者・地域住民の協力体制が整っている。
- 今年度、学校評議員、自治会役員、保護司、民生児童員、保護者、学校職員で構成する「学校運営協議会」を組織し、学校運営の充実と改善を図っている。
- 「上磯中学校区子どもを育てる会」が組織され、「保幼小中高」の連携が図られている。
- 地域ボランティアによる放課後の学習サポートを実施している。

体験的な活動の実際

地域の人材等を活用し、児童の興味・関心を高め、問題解決的な学習方法が身に付く体験的な活動を行っている。

また、家庭学習や長期休業中の自由研究につながる授業を行ったほか、市内中学校、高等学校との連携を図った体験的な活動も取り入れている。

全国学力・学習状況調査における課題に対応するため、余剰時数を活用した「ターゲット単元」の設定や日常の授業との関わりをもたせる体験的な活動を行い、問題解決的な学習との関連を図っている。



【地域人材を活用した体験的な活動】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
5月9日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学級における基礎・基本の定着を図る教科指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導時数の充実 ・定着を確認する単元テストの実施 ・放課後の学習サポートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の開催（5月） <ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業の実施に当たり、学校運営協議会において、学校運営に関する方向性と土曜授業の趣旨や教育課程、サポート等について提案・承認 ○ ターゲット単元の設定（5月） <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査等で正答率が低い指導事項について、該当する単元に余剰時数を活用して指導に当たることを年間指導計画に明記
7月8日（金）		
7月9日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「見つけよう、北海道のクワガタ VS 知ろう、深海の生き物たち！」 <ul style="list-style-type: none"> ・講師：博物館学芸員、大学教授 ・スライドや標本によるクワガタと深海魚の生態と特徴についての学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・高い専門性をもつ地域人材による総合的な学習の時間等の実施 ・課題発見力、課題解決力等の育成を目指した指導
7月11日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習への意識付け <ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業で問題解決的な学習の手法の一部を身に付けさせるとともに、日常の授業における児童の疑問を土曜授業の体験的な活動に関連付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 補足的な学習サポートの実施（7月） <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット単元や1学期の学習を振り返り、課題の見られる単元や領域について夏季休業中に指導し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着
8月26日（金）		
8月27日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「わくわくワークショップⅡ in 谷川」 <ul style="list-style-type: none"> ・講師：地域住民や地元企業の職員 ・理科実験や絵手紙、火起こし体験など8種類の講座から2つ選択して学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人材の確保（7月） <ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会、学校運営協議会、地域の大学、高等学校、博物館、企業への協力依頼



【わくわくワークショップ】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
 - ・学校運営協議会において保護者・地域、講師等とねらいを共有
- ◆課題解決を図るカリキュラム編成
 - ・全国学力・学習状況調査、土曜授業にかかわるアンケートや自校の教育アンケート等の結果分析から明らかとなった課題を踏まえたカリキュラムの編成
- ◆人材・教材等の確保
 - ・市教育委員会社会教育担当者、学校運営協議会、本校PTA、自治会等との連携による、講師の人材や教材の確保

体験的・問題解決的な学習の充実を図る土曜授業のモデルカリキュラム（奥尻町立青苗小学校） 学級数8（うち、特別支援学級4）児童33名

〔子どもの姿〕

- 離島という環境から学校・家庭以外での学習機会が限られている。
- 全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、土曜日の生活において、「学習塾など学校や家以外で勉強する児童」の割合は0%となっている。
- 地域と連携・協力した教育活動を推進することで、学習機会の拡充を図っている。
- 地域の人材、教材を活用することでふるさとに対する意識を育む。

〔本校における土曜授業のねらい〕

各教科等において地域の教育資源（保護者・地域・各施設）を活用した体験活動を重視することにより、防災教育とふるさと教育を充実させるとともに、豊かな人間性や自ら学び考える力の育成を図る。

〔目標指標〕

全国学力・学習状況調査の児童質問紙等において、「課題に対して自ら考え、自ら取り組んでいる」と回答する児童を100%とする。

〔地域の実状〕

- 北海道南西沖地震被災から23年目を迎え、震災の記憶も薄れつつある中、その教訓を風化させないために防災教育の充実に努めている。
- 保護者、地域の教育への関心は高く、学校教育にも協力的である。
- 離島という地理的条件のため町外からの講師招聘という面では課題も多いが、土曜授業や防災教育の実施に当たっては、教育資源としての地域の人材、各関係機関から惜しみのない協力が得られる。

地域の教育資源を活用した 体験活動の実際

土曜授業は平日に比べて地域の方々が参加・協力しやすいという利点がある。そのため、本校では土曜授業のゲストティーチャーとして地域の方々に積極的に関わっていただいている。また、各施設や地元商店においても土曜日における見学等を受け入れていただいている。児童にとっては身近な地域の方々から学ぶことを通して、「ふるさと青苗」や自己の生き方を見つめる貴重な機会となっている。



【ライフセービング教室】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月～12月 （2月の発表会 に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年間を見通した「防災教育」指導計画に基づいた学習活動の実施 ○ 生活科や総合的な学習の時間で「ふるさと教育」について体験活動、調べ学習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人材、教育資源の活用 ・奥尻津波語りべ隊による講話 ・奥尻町防災訓練への参加 ・地域の安全や暮らしを守る施設（奥尻津波館等）の見学
5月14日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回土曜授業の実施 「全校新体カテスト」 ・全校による新体カテストを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭との連携 ・保護者が計測や記録を補助
6月11日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回土曜授業の実施 「エネルギー教育～奥尻の宝～」 ・奥尻町の地熱発電の可能性について学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャーの活用 ・地質調査のため来町した大学生（慶応大学）の協力（講師） ・奥尻高等学校生徒の協力（補助）
7月23日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5回土曜授業の実施 「ライフセービング教室」 ・海での身の守り方について学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャーの活用 ・B&G瀬棚海洋クラブ指導員の協力
2月18日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第9回土曜授業の実施 「生活科・総合的な学習の時間発表会」 ・各学級で取り組んだ防災学習や調べ学習の成果を発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校・家庭・地域の連携 ・広く参観を呼びかけ、学校・家庭・地域・行政と一緒に子どもの成長を語り合う機会を設定



【エネルギー教育～奥尻の宝～】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
 - ・保護者、地域や関係協力団体等とねらいを共有
- ◆各種調査やデータ等に基づくカリキュラムを編成
 - ・全国学力・学習状況調査の結果分析や数値目標の設定
- ◆学習内容と必要な人的・物的資源等の関連
 - ・地域の教育資源の計画的な活用
 - ・町外講師の活用

学ぶ意欲を高め人格を磨く土曜授業のモデルカリキュラム 稚内市立稚内中学校 学級数7(うち、特別支援学級2) 生徒128名

【子どもの姿】

- 全国学力・学習状況調査等の結果から、「基礎的・基本的な学習内容の定着」と「思考力・判断力・表現力等の育成」が課題として明らかになっている。
- 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査等の結果から、「睡眠時間」と「家庭学習時間」に課題があることが明らかになっている。
- 保護者や地域住民は協力的であるが、家庭の経済格差が大きく、子どもの貧困も顕在化している。

【本校における土曜授業のねらい】

平日の授業の充実につながる生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

【目標指標】

全国学力・学習状況調査において、「話し合い活動を通して、自分の学びを深めたり広げたりできる」生徒の割合を全国比1.5倍以上に高め、A・B問題ともに全国平均を超える。

【地域の実状】

- 稚内市の中心市街地に位置し、最も古くからの伝統や文化を有するが、少子高齢化が進行している。
- 稚内市の子育て運動を具現化する「北地区子育て連絡協議会」及び「北地区子ども育成連合会」が組織され、「学校運営協議会」的な役割を果たしている。
- 地元の幼保・小・中・高・大の連携が進んでおり、現職教職員やSC、SSW、民生児童委員等で構成される「北地区子ども支援ネットワーク」が機能し、地域ぐるみで、「いじめの未然防止」等に取り組んでいる。

思考力・判断力・表現力等の育成の実際

本校が研究テーマとして取り組んでいる「学び合い」授業を、体育館で全校で実施することにより、課題解決に必要な協働性の大切さを実感したり、深い学びにつなげたりできるよう工夫している。

全校による授業の前には、各学級で道徳の授業を行い、協働性に関連した道徳的価値について考え、議論させ、補充・深化・統合の機能を高める教育課程を編成・実施している。

全校での「学び合い」の授業においては、問題解答達成率を各学級で競い、優秀学級の表彰を行うなど、全校生徒が相互に賞賛する場面を設定し、生徒の学ぶ意欲の高揚につなげている。



【全校での「学び合い」の授業】

【カリキュラムの工夫】

期 日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
6月10日(金)	○ 第2回土曜授業日の公開案内配布 ・保護者や地域住民等に広く周知 *毎回、同様に事前周知	○ 職員会議開催 5月16日 ・第2回土曜授業に関する推進体制の確立
6月14日(火)	○ 「学び合いカップ通信」を全校生徒に配布 ・土曜授業「科学の甲子園ジュニア・稚中大会」実施の周知	○ 北地区子育て連絡協議会総会開催 5月27日 ○ 北地区子ども育成連合会総会開催 6月8日 ・モデル校としての取組の説明、授業参観及び地域人材派遣の依頼による協働性の促進
6月18日(土)	○ 第2回土曜授業「科学の甲子園ジュニア・稚中大会」の実施 ・1時間目に各学級で道徳の授業を実施し、協働性に関する価値を共有 ・体育館で学級別ブースを設定し、「学び合い」の授業を実施 ・上位学級の表彰と全校生徒への賞賛	○ 目標「全国大会問題への挑戦」の設定 ・地元小学校関係者への授業参観案内による成果の還元 ・授業参観された保護者や地域住民との対話
8月21日(日)	○ 科学の甲子園ジュニア宗谷地区予選	○ 代表チームによる参加と全体への周知
10月29日(土)	○ 第7回土曜授業「高校教員を招いての特別授業」の実施 2年:「質の高い理科実験」 3年:「オールイングリッシュ英語」	○ 目標「深い学びを実現する授業」の設定 ・外部講師による魅力あふれる指導
11月7日(月)	○ 「学び合いカップ通信」を全校生徒に配布 ・土曜授業「学び合いカップ②・国語」実施の周知	○ 教愛会(PTA)役員会の開催 11月10日 ・モデル校としての取組経過の説明及び第2回アンケートへの協力要請
11月12日(土)	○ 第8回土曜授業「学び合いカップ②・国語」の実施 ・1時間目に道徳、2~3時間目に「学び合い」の授業を実施	○ 目標「チャレンジテストへの挑戦」の設定



【学級別ブースでの「学び合い」】

本カリキュラムのポイント

◆土曜授業のねらいの明確化

- ・平日の授業に結び付く学習意欲の喚起を図る教育課程の編成・実施

◆生徒の変容の共通認識

- ・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、CRT等の結果を踏まえた検証・改善

◆実践状況の公開性担保

- ・保護者や地域住民、関係者への授業参観案内、参加者の評価の活用
- ・コンクール、競技会等への参加